

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(千円)
塗料関連事業	2,042,714
自動車製品関連事業	4,392,676
合計	6,435,390

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当グループは受注による精算は僅かであり、主として見込生産によっておりますので、受注ならびに受注残高については特に記載すべき事項はありません。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)
塗料関連事業	3,273,007
自動車製品関連事業	6,142,610
合計	9,415,618

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	当第2四半期連結会計期間	
	販売高(千円)	割合(%)
(株)中外	1,830,974	19.5
本田技研工業(株)	1,165,060	12.4

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結はありません。

3 【財政状態及び経営成績の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

当年度は四半期報告制度の導入初年度であるため、「(1) 業績の状況」および「(3) キャッシュ・フローの状況」において比較、分析に用いた前年同期数値は、独立会計監査人による四半期レビューを受けていません。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題の深刻化を背景とする米欧の景気減速により輸出の伸びが大幅に鈍化するとともに、原油および原材料価格の高騰が企業収益を圧迫し、設備投資の減少や所得環境の悪化による個人消費の低迷など、景気の後退懸念が一段と強まってまいりました。

このような経営環境の変化に対処すべく、当社グループでは、生産性の向上、顧客ニーズに合致した環境対応型製品や価格競争力のある新製品の開発に精力的に取り組む、積極的な拡販活動に努めてまいりました。

また、当初の予想を大幅に上回る原油・ナフサ価格の高騰による原材料価格の上昇に対し、販売価格の是正と各部門での懸命な原価低減および経費削減による収益改善に取り組みました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間の連結業績は、売上高94億1千5百万円（前年同期比5.6%増）、営業利益6千万円（前年同期比19.8%増）、経常利益4億2千万円（前年同期比3.5%増）、四半期純利益3億4千7百万円（36.9%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①塗料関連事業

当部門におきましては、顧客ニーズに合致した環境対応型塗料を中心に各市場に向けて積極的な拡販活動を行いました。品種別売上高につきましては、合成樹脂塗料、防水材及び床材・舗装材は前年同期比それぞれ6～14%の増加となり、工事関連の売上につきましては、マンション等改修工事物件の受注増加に伴い、前年同期に比べ40.7%と大幅な増加となりました。

この結果、当部門の売上高は32億7千3百万円（前年同期比10.8%増）、営業利益は2千9百万円（前年同期比－）となりました。

②自動車製品関連事業

当部門におきましては、米国発の世界的な景気減速懸念が現実のものとなり、これまで好調であった自動車輸出の陰りとともに自動車の国内需要も低迷を続けています。

このような状況のもと、品種別売上高につきましては、吸遮音材の売上高は、高級乗用車の国内販売や輸出不振の影響を受け、前年同期比7.1%の減少となりました。

制振材は、燃費向上のための軽量化検討などで車両1台あたりの使用量は減少傾向であります、前年同期比売上高では4.8%の増加となりました。防錆塗料につきましては、水系塗布型制振材や耐チッピング塗料、車体シーリング材の採用拡大で、売上高は前年同期比21.8%の増加となりました。

この結果、当部門の売上高は61億4千2百万円（前年同期比3%増）、営業利益は3千1百万円（前年同期比63.5%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、400億8千5百万円と前連結会計年度末に比べ3億5百万円減少となりました。減少した主な要因は、有形固定資産の減少2億1千1百万円によるものです。

負債合計は214億8千5百万円と前連結会計年度末に比べ1億8千2百万円減少しました。減少した主な要因は、流動負債その他で3億5千6百万円増加があったものの、仕入債務が1億8千2百万円、借入金が増加したことで3億1百万円、それぞれ減少したことなどによるものです。

純資産合計は、186億円と前連結会計年度末に比べ1億2千2百万円減少となりました。減少した主な要因は利益剰余金で4億2千3百万円増加があったものの、その他有価証券評価差額金が2億3千9百万円、為替換算調整勘定が3億2千1百万円、それぞれ減少したことなどによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、24億9千4百万円と前連結会計年度末に比べ7千8百万円の増加となりました。

当第2四半期連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは8億5千9百万円の資金の増加となりました。この主な要因は減価償却費6億6千9百万円、仕入債務の増加1億6千6百万円などの収入によるものです。

なお、当第2四半期連結累計期間では、減価償却費12億7千1百万円、売上債権の減少などにより15億6千4百万円の資金の増加となりました。

当第2四半期連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは4億1千4百万円の資金の減少となりました。この主な要因は有形固定資産の取得4億2百万円などの支出によるものです。

なお、当第2四半期連結累計期間では、10億2千1百万円の資金の減少となりました。

当第2四半期連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは8億2千6百万円の資金の減少となりました。この主な要因は短期借入金の減少7億6百万円、長期借入金の返済による支出1億1千3百万円などによるものです。

なお、当第2四半期連結累計期間では、長期借入金の返済及び配当金の支払などにより4億7千5百万円の資金の減少となりました。

(4) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財政上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間の研究開発費の総額は2億6千4百万円であります。

また、当第2四半期連結会計期間における研究開発活動の状況の変更の内容は、次のとおりであります。なお、塗料関連事業における研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

自動車製品関連事業

世界的な環境問題への高まりを背景に新規軽量防音システム部品「リエタ・ウルトラライト」は、高品質と優れた音響特性により、省燃費化に対する要求を背景に、お客様より引き続き高い評価をいただいております。年々その採用が拡大しています。

当社は、多様な顧客のニーズに応じた新しい仕様の製品開発を進めており、新たに従来品に比べ更なる軽量化を図った製品仕様の開発に成功しました。

従来の製品は、各部位に対して均一な音響特性を持つものでしたが、新しい音響設計技術の改善により、製品内の各部位ごとに必要とされる、異なった音響特性を付与しています。この結果、従来品と同等の防音性能を維持しつつ、10～20%の軽量化を達成しています。